

円の面積について

おおき みのる
大木 実

三角関数を微分する際の公式は角 θ を弧度法で表し、まず

$$\lim_{\theta \rightarrow 0} \frac{\sin \theta}{\theta} = 1 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

の証明から始めます。

この証明には、半径 r の円の面積 πr^2 を用いて、扇形とその内接三角形、外接三角形の面積の大小関係から、角度を 0 に近づける極限操作をします。

ところで円について、(円周) \div (直径) の値として、円周率 π を決めたととき、半径 r の円の面積 S について、通常内接正 n 角形の面積を S_n 、外接正 n 角形の面積を S_n' として

$$S_n < S < S_n',$$

$$S_n = \frac{1}{2} n r^2 \sin \frac{2\pi}{n}, \quad S_n' = n r^2 \tan \frac{\pi}{n}$$

が成立します。 $\frac{\pi}{n} = \theta$ とおくと

$$S_n = \frac{1}{2} \pi r^2 \frac{\sin 2\theta}{\theta}, \quad S_n' = \pi r^2 \frac{\tan \theta}{\theta}$$

不等式は

$$\frac{\sin \theta}{\theta} \cdot \cos \theta < \frac{S}{\pi r^2} < \frac{\sin \theta}{\theta} \cdot \frac{1}{\cos \theta}$$

となります。

$$\frac{S_{2n}}{S_n} = \frac{1}{\cos \theta},$$

$$\frac{S_{2n}'}{S_n'} = 1 - \tan^2 \frac{\theta}{2},$$

$$\frac{S_n'}{S_n} = \frac{1}{\cos^2 \theta}$$

ですから、 $m = 2^k n$ ($k = 1, 2, \dots$) として、数列 $\{S_m\}$ は増加数列、数列 $\{S_m'\}$ は減少数列で同一極限值をもちます。この極限が正 n 角形が円になったときの面積で、極限值が πr^2 となるには $\textcircled{1}$ を前提にしています。ゆえに、この方法での $\textcircled{1}$ の証明は循環論法になります。

円の面積を $\textcircled{1}$ を用いずに求める方法を考えました。周囲の長さが $2\pi r$ の正 n 角形 A_n の中心を O とします。 $\frac{\pi}{n} = \theta$ とおくと、一辺の長さは $2r\theta$ 、 O から頂点までの距離を l_n 、 O から辺までの距離を h_n 、面積を S_n とおくと

$$l_n = \frac{r\theta}{\sin \theta}, \quad h_n = \frac{r\theta}{\tan \theta}, \quad S_n = \pi r^2 \frac{\theta}{\tan \theta}$$

面積が S_n の円を C_n とし、その半径を r_n とします。

A_n の内接円は半径が h_n で、外接円は半径が l_n です。円 C_n の中心を点 O にすると円周は正 n 角形 A_n の辺と交わりません。

$$h_n < r_n < l_n, \quad \frac{h_n}{l_n} = \cos \theta$$

$$\frac{S_{2n}}{S_n} = \frac{\tan \theta}{2 \tan \frac{\theta}{2}} = 1 + \frac{\sin^2 \frac{\theta}{2}}{\cos \theta} > 1$$

$$\therefore r_n < r_{2n}$$

$$\frac{h_{2n}}{h_n} = \frac{\tan \theta}{2 \tan \frac{\theta}{2}} > 1,$$

$$\frac{l_{2n}}{l_n} = \frac{\sin \theta}{2 \sin \frac{\theta}{2}} = \cos \frac{\theta}{2} < 1$$

$m = 2^k n$ ($k = 1, 2, \dots$) として、数列 $\{r_m\}$, $\{h_m\}$ は増加数列、 $\{l_m\}$ は減少数列で

$$h_m < r_m < l_m \quad (m = 2^k n, \quad k = 1, 2, \dots)$$

$$\lim_{k \rightarrow \infty} (l_m - h_m) = \lim_{k \rightarrow \infty} l_m \left(1 - \frac{h_m}{l_m} \right)$$

$$\leq \lim_{k \rightarrow \infty} l_n \left(1 - \cos \frac{\theta}{2^k} \right) = 0$$

となり、 $k \rightarrow \infty$ で $\{h_m\}$, $\{r_m\}$, $\{l_m\}$ は同一極限に収束します。この極限を r_0 とします。また、図形 A_m は周辺が半径 h_m の内接円と半径 l_m の外接円とに挟まれた範囲にある凸多角形ですから、円 C_m の

極限 C_0 に収束します。しかし、 A_m の周は常に $2\pi r$ ですから、円 C_0 の周も $2\pi r$ となります。

よって、円 C_0 の半径は r です。

$$\therefore r_0 = r \quad \therefore \lim_{k \rightarrow \infty} h_m = \lim_{k \rightarrow \infty} l_m = r$$

したがって

$$\lim_{k \rightarrow \infty} \frac{\theta}{\sin \frac{\theta}{2^k}} = \lim_{k \rightarrow \infty} \frac{l_m}{r} = 1,$$

$$\lim_{k \rightarrow \infty} \frac{\theta}{\tan \frac{\theta}{2^k}} = \lim_{k \rightarrow \infty} \frac{h_m}{r} = 1$$

よって①が証明され、同時に

$$\lim_{k \rightarrow \infty} S_m = \pi r^2$$

が成立するので、半径 r の円 C_0 の面積は πr^2 となります。なお $\lim_{k \rightarrow \infty} l_m = r$ を用いると

$$\frac{r}{l_n} = \frac{l_{2n}}{l_n} \cdot \frac{l_{4n}}{l_{2n}} \cdot \frac{l_{8n}}{l_{4n}} \cdots \frac{l_{2^k n}}{l_{2^{k-1} n}} \cdots$$

したがって

$$\frac{\sin \theta}{\theta} = \cos \frac{\theta}{2} \cdot \cos \frac{\theta}{4} \cdots \cos \frac{\theta}{2^k} \cdots$$

が成立します。

(元 成安女子高等学校)

